

楽しく生き生きと表現できる子をめざして

～コミュニケーションを軸にした音楽づくりを通して～

I はじめに

低学年の児童の多くは、音楽の授業を楽しみにしている。歌が流れてくると自然と口ずさんだり、演奏したことのある音楽が流れてくると鍵盤ハーモニカをふくように指を動かしたりする様子も見られる。その反面、音楽に対して苦手意識をもってしまっている児童も少なくない。その原因として何が考えられるかを知るために、クラスの児童にアンケートをとった。歌うことと聴くことについては、「すきではない」「あまりすきではない」と答えた児童が少なかったが、楽器を演奏することと音楽づくりについては、「すきではない」「あまりすきではない」と答えた児童が多かった。理由を聞いてみると、楽器を演奏することに関しては「上手にできないから」「難しいから」という理由が多く、音楽づくりに関しては「よくわからないから」「あまりやったことがないから」という理由が多かった。また、普段の授業をどのように行っているか、校内の先生方に聞いてみたところ、行事の歌唱指導や楽器演奏で時間を多くとられ、音楽づくりに取り組む時間が限られている実態が浮き彫りになった。このことから、限られた時間の中でも、児童が音楽づくりの楽しさを感じ、音楽に対して苦手意識をなくせるような研究を進めたいと考えた。そのために、新たに教材を増やすのではなく、普段歌っている歌をきっかけに、楽しんで行える音楽づくりにつなげたいという思いからこのテーマを設定した。

音楽アンケート結果

項目	とてもすき	すき	あまりすきではない	すきではない
音楽のじゅぎょうはすきですか。	18	12	2	1
歌うことはすきですか。	23	7	3	0
がっきをえんそうすることはすきですか。	21	5	6	1
音楽をきくことはすきですか。	22	8	2	1
音楽づくりはすきですか。	18	7	6	2

II 研究仮説

思ったことや考えたことを「楽しく生き生きと表現する子」を目指し、コミュニケーションを軸とした音楽活動を取り入れることで、より音楽の良さや楽しさを感じ取り、生き生きと表現する子どもが育成できるのではないかと考え、以下のように研究仮説をかかげた。

研究仮説

コミュニケーションを軸とした音楽活動を取り入れることで、より音楽の良さや楽しさを感じ取り、生き生きと表現する子どもが育成できるのではないかと考え、以下のように研究仮説をかかげた。

この研究仮説に基づき、3つの手立てをとることにした。

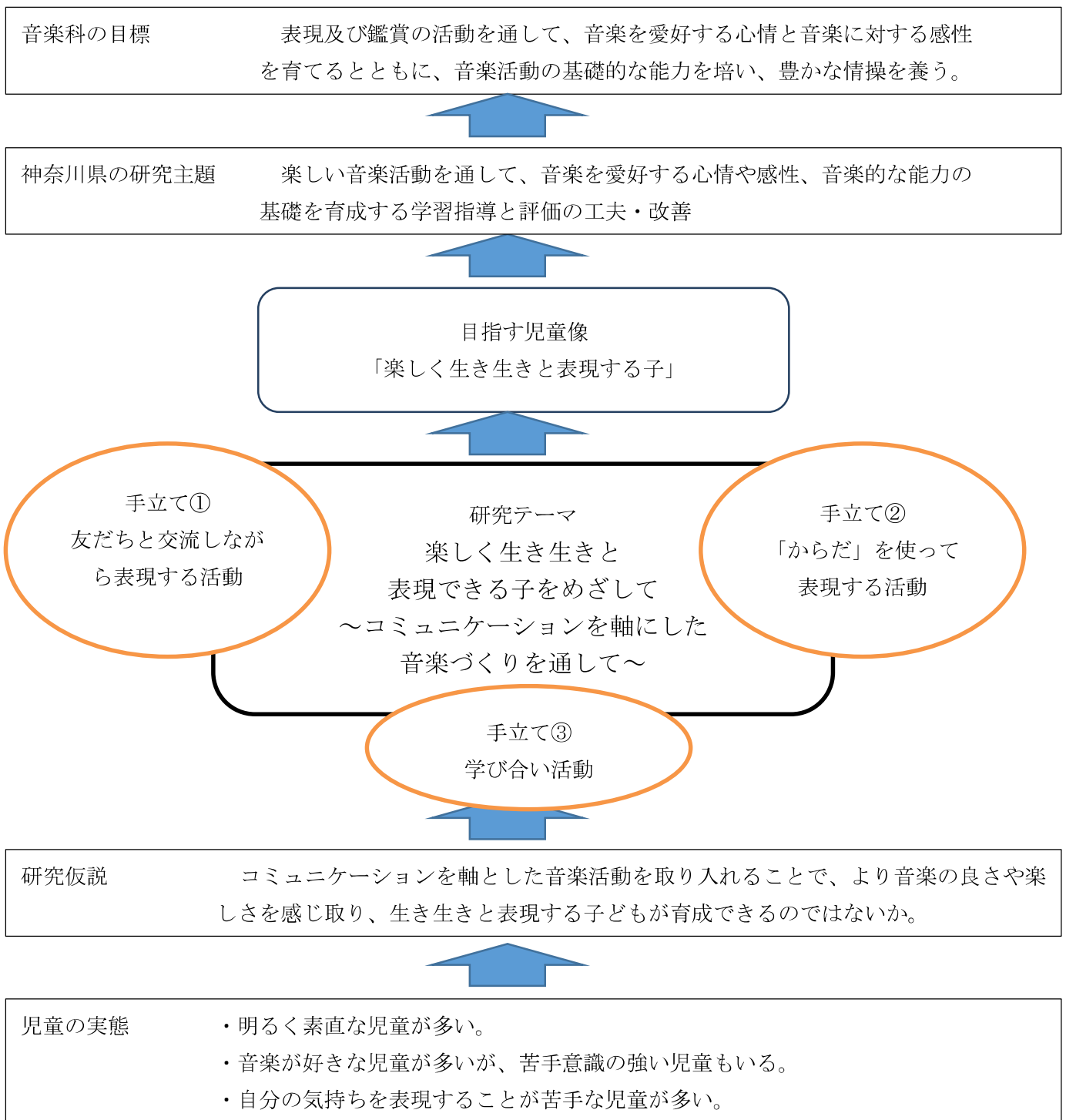
「手立て①友だちと交流しながら表現する活動」では、ペアやグループでの活動を多く取り入れた。授業の導入で近くの友だちと手遊び歌やリズム遊びを行ったり、考える活動ではペアやグループで意見を伝え

合う活動を多く行った。

「手立て②からだを使って表現する活動」では、からだ全体を使ってリズムをきざんだり、動きをつけたりしながら歌を歌った。リズムを手拍子だけでなく、足や身の周りのものなど、全身を使って様々なリズムに触れるようにした。また、歌のイメージをしやすいように手話を取り入れたり、動きを取り入れたりした。からだの動きとともに強弱や雰囲気を意識する様子も見られた。

「手立て③校内研究と関連させた学び合いを活かした活動」では、学校全体で取り組んでいる校内研究「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」を音楽でも取り入れた。教え合う楽しさや、みんなで分かるようになる喜びを感じ、教師が意図して設定しなくても児童の中で自然と教え合い、学び合う姿が見られるようになってきた。そしてその喜びが音楽の楽しさにもつながっていた。

Ⅲ 研究構想図



IV 指導の工夫

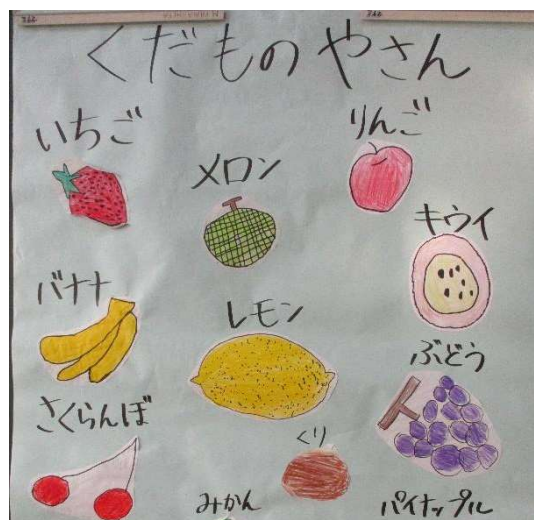
手立て① 友だちと交流しながら表現する活動

手遊び歌

授業の導入で2人組で向かい合い、「アルプス一万尺」や「線路はつづくよどこまでも」や「十五夜さんのもちつき」を手遊びしながら歌った。歌と動作が一つになった手遊びは、友だちと呼吸を合わせて行う。気持ちを共有する楽しさを体感できることから、「自分の気持ちを伝えたい」という欲求が生まれ、それが自然と子ども同士のコミュニケーションにつながっていったと考えられる。

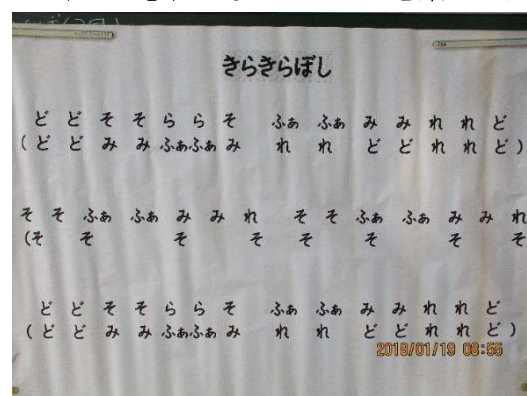
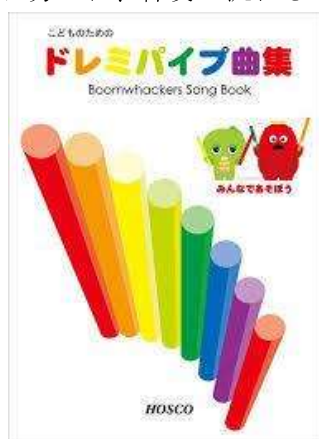
おみせやさん

リズムリーダーが「くだものやさん」になり、○○○●（タンタンタンウン）と手をたたきながら、○○○（タンタンタン）の中に入る言葉（くだもの）を言う。他の児童が手をたたきながらまねをする。タンブリンで一定の速さをキープしながら、拍の流れにのれるようにする。「やおやさん」「おかしやさん」「くだものやさん」「虫やさん」など、お店ごとに言葉を集めた。



ドレミパイプ

カラフルなチューブ・パーカッション「ドレミパイプ」を使ってグループやクラス全体で曲を作り上げる活動を行った。始めはCDから流れてくる「ドレミの歌」に合わせて担当する音を出す活動を行い、その後、「きらきらぼし」や「ぶんぶんぶん」をグループごとに音を分担して練習し、クラス全体で一つの曲を演奏できるようにした。「きらきらぼし」は二部に分かれ、伴奏が流れる中でドレミパイプのきれいなハーモニーを楽しんだ。



手立て② 「からだ」を使って表現する活動

リズム遊び

教師のたたくいろいろなリズムパターンをまねっこする。提示する速度を変えたり、同じ手拍子でも5本の指～4本～3本～2本とリズム打ちする指を変えていき、速度や強弱の違いを感じられるようにする。手拍子だけでなく、机をたたいたり、足で床を打ったりと、アレンジを加えていく。教師のまねっこができるようになったら、子どものまねっこリレーをしていく。既習のリズムを黒板に掲示して行うことで、音符や休符をリズムと関連づけて意識することもできた。

楽器の音で動こう

教師のトライアングルの音に合わせて指を動かす。長く響く音、短く切る音、繰り返す音など、様々な音に合わせて動かす。慣れてきたら、腕だけ、足だけ、腰だけ、というようにいろいろな体の部分で同様に音に合わせて動かす。音を動きで表現することに慣れるようにする。ギロ・カウベル・ウッドブロックなど、楽器を変えると子どもたちの動きも変化した。

手話

学期に1曲ずつ手話をつけて歌う曲を選んだ。「はじめの一步」「にじ」「世界に一つだけの花」など、歌集にもなっていて、もともと歌ったことがあるものを選曲した。だんだん難しくなっていたが、手話をつけることで歌詞が覚えやすくなり、歌のイメージを持つことができた。3学期の最後の授業参観で学習発表会を行った際には、「世界に一つだけの花」を披露した。

歌に動きをつけよう

歌い慣れている音楽にのせて体を動かしながら歌う。様々な歌詞を入れることで動きにも変化が生まれる。

「森のくまさん」→2人で向き合って1番を踊りながら歌う。間奏の間に次の友だちをみつけて新しい友だちと2番を踊りながら歌う、を繰り返す。

「大きなくりの木の下で」→1番は動きをつけて「大きなくり」で歌う。2番は「小さなくり」で動きも小さくなるようにする。3番からはオリジナルで、「なかよく遊びましょ」ではなく「なかよくフラダンス」や「なかよくボクシング」と、動きをつけやすい歌詞を提示する。

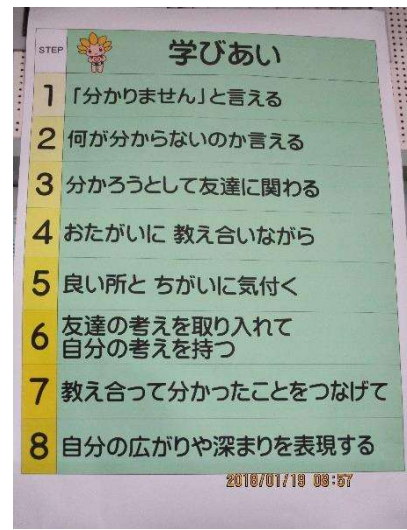
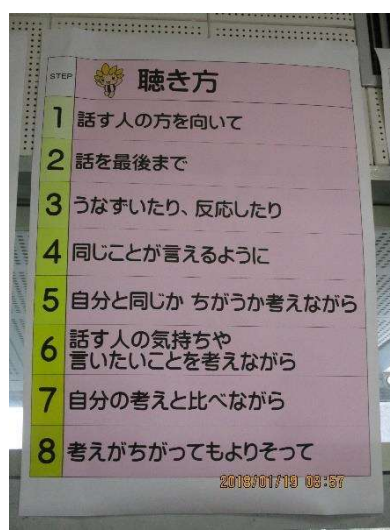
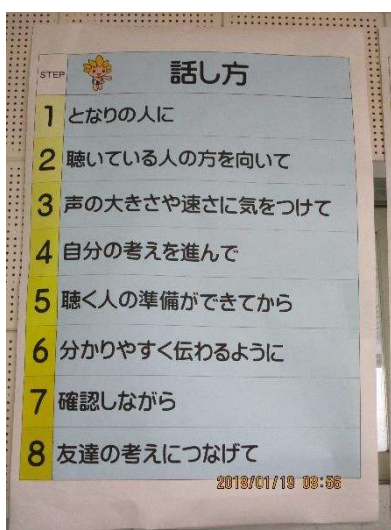


手立て③ 学び合い活動

本校の研究主題は、「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」で、全領域で「学び合う」活動を積極的に取り入れている。音楽活動には、他の人とのかかわりがあり、音楽活動をする中で個と集団のかかわり方を身に付けていくという場面がある。仲間とともに一つの音楽をつくりあげたり、聴きあったりすることで、お互いの連帯感や感動体験を共有することができる。このような体験を積み重ねる中で、音楽との新たな出会いや、音楽表現の喜びが生まれ、音楽活動に対する意欲をより高めていこうとする「集団における学び」が生まれると考えた。

教室掲示

系統表で示された目指す姿を子どもに分かりやすく伝えるため、話す・聴く・学び合いに関する具体的な姿勢や言葉を教室に掲示している。全学年同じものを掲示しているが、学年の現状にあったところを目標にすることができる。「今日の授業では○番を意識しようね」と投げかけてスモールステップで進むことができる。



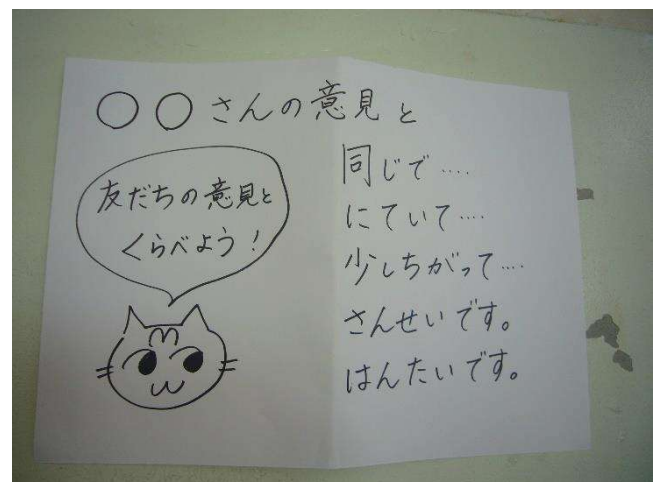
学習形態

ひとり学習→ペア学習→グループ学習→おさんぽ学習→全体と、様々な学習形態をとることで、話すことが苦手な児童も自分の考えを友だちに伝えることが少しずつできるようになっていった。

研究授業の「あそび歌」をつくろうの題材では、本時（第4時）でペアごとの発表に時間が少ししかとれなかったため、第5時で2つのペアでグループを作り、お互いのあそび歌をきき合い、意見を伝え合う活動を行った。

聴き方の指導

姿勢、体の向き、うなずきなど、友だちの意見を反応しながら聴くように指導した。また、自分の意見を伝える前に「〇〇さんの意見と同じで～、似ていて～、少し違いますが～」など、友だちの意見を自分の考えと関連づける言葉をつけて発言するようにした。



V 学習指導案

音楽科学習指導案

座間市立相武台東小学校

指導者 鈴木 真奈美

1 日 時 平成 29 年 11 月 1 日 (水) 第 3 校時 (10:45~11:30)

2 学年・組・場所 第 2 学年 3 組 (32 名) 教室

3 題 材 名 「あそび歌」をつくろう

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領では以下のように位置づけられている。

【小学校学習指導要領 音楽 2 内容】

第 1 学年及び第 2 学年

A 表現

(3)

ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。

イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

[共通事項]

(1)

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

本題材は、低学年に親しまれている「山びごっこ」である。この曲は終始、音楽の仕組みである「問いと答え」でできており、曲の長さも短く、低学年の児童にとって仕組みを理解しやすい曲といえる。何気なく歌っている曲も、音楽の仕組みに注目させることで、音楽的な学びが深まることをねらい、この題材を設定した。児童が見通しをもって取り組めるように全体構成を提示し、同じ条件、同じ構成の中でつくり上げていけるようにした。自分と友だちとの作品の変化や違いに気づき、関心をもって表現を工夫することができる題材である。

(2) 児童観

本学級は、みんなと一緒に歌を歌ったり体を使ってリズム遊びをしたり鍵盤ハーモニカで演奏したりすることが好きな児童が多い。毎日の朝の会でも歌を歌うことが習慣になっている。約束を守ってみんなと楽しむ反面、自由に体を動かしながら音楽を楽しむこととなると、戸惑ったり消極的になってしまったりする児童が多くみられる。苦手意識の強い児童が、楽しみや達成感を感じられるような音楽づくりを大切にしてい

きたい。そして、自分の思いをもって、感性や想像力を豊かにしながら音楽をつくりあげていく喜びを味わわせたい。

(3) 指導観

本市の小学生は、全般的に明るく素直で思いやりのある児童が多い傾向がある。一方、集中力に欠ける児童や、集団の中でコミュニケーションがとれない児童も見られ、ねばり強く取り組むことや自己表現をしていくこと等が、課題としてあげられる。そのような課題を受け、座間市小学校教育研究会音楽部では、授業の中で音をつなぎ、心をつないでいけるような音楽づくりや、子どもに意欲（歌いたい、演奏したい）を持たせる工夫をし、「全員が参加し、一人一人が達成感を得られる授業」を目標に研究を進めてきた。

本学級でも全員が楽しみや達成感を感じられるように、どの子も「やりたいな。」「できそうだな。」と思えるような、児童が大好きな遊びをテーマにして活動することにした。また、ペア活動やグループ活動を取り入れることで、音楽が苦手だと感じている児童も、友だちに教えてもらったり励まされたりすることで少しずつ自信をもてるようになるのではないかと考える。様々な形態で友だちと交流しながら共に学び合う活動を通して、音楽をつくりあげる喜びを味わわせていきたい。

5 題材の目標

- 声を素材にしてリズムをつなげたり重ねたりして、簡単な音楽をつくる。
- 音楽の「問いと答え」の仕組みを生かしながら、友だちと協力して音楽をつくる。

6 題材の評価規準

評価の観点	評価規準
音楽への関心・意欲・態度	自分や友だちの歌声に興味・関心をもち、様子を思い浮かべて表現する学習に進んで取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	自分や友だちの歌声を聴き取り、よさや面白さなどを感じ取りながら、自分の思いをもって表現を工夫している。
音楽表現の技能	「問いと答え」の仕組みやリズムを生かして、拍の流れを意識しながら呼びかけたり答えたりしている。
鑑賞の能力	楽曲を特徴付けている音楽の仕組みに注意しながら聴き、音楽の楽しさに気付いて聴いている。

7 指導・評価計画（5時間扱い）

時	ねらい	○学習活動・◇指導上の留意点	関	創	技	鑑	評価規準・評価方法
第1時	「問いと答え」の仕組みに注意しながら聴き、音楽の楽しさに気付く。	○「山びこごっこ」や「あの青い空のように」を聴き、「問いと答え」の仕組みに気付く。 ○歌いかける側と答える側に分かれて歌う。 ◇体全体の身振り、声の強弱や音色（怒った声、優しい声、澄んだ声など）を変えて表現力を高めさせる。				○鑑	鑑…楽曲を特徴付けている音楽の仕組みに注意しながら聴いている。 (観察・発言)

第2時	・「山びこごっこ」の旋律を生かしながら、呼びかけたり答えたりする。	○「山びこごっこ」の旋律を生かしながら、歌詞ではなく、お互いの名前を使って呼び合う活動を行い、たくさんの仲間と表現し合う。 ○歌い方だけでなく、表情や体の動きまでまねをする。 ◇友だちと協力し合って一つの歌を作り出すことを意識させる。			○	技 …音楽の仕組みに気づいて、呼びかけたり答えたりしている。 (観察)
第3時 ・ 第4時 本時	・自分の思いをもって、イメージを膨らませて、歌詞や声の表現を工夫する。	○歌をつくる時の「やくそく」を確認し、遊ぶ内容を考える。 ○全体を通して練習をする。 ◇「あそび歌」の全体構成を提示し、見通しをもって活動を行えるようにする。 ◇見本を示し、イメージをしやすいようにする。 ◇歌詞だけでなく「からだ」も使って、どんな遊びか伝わるように表現するように伝える。			○	創 …自分の思いをもって、イメージを膨らませて、様子に合った歌詞や声の表現を工夫している。 (観察・ワークシート)
第5時	・自分の思いをもって、様子に合った音楽づくりをしている。	○歌をつくる時の「やくそく」を確認し、遊んでいる様子を擬音語などで表してリズムを重ねていく。 ○一定の拍に合わせながら、リズムを考える。 ◇既習のリズムを提示し、使いやすいものを選択できるようにする。 ○それぞれの「あそび歌」のよさをお互いに認め合う。	○	○		関 …様子を思い浮かべて音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 (観察) 創 …自分の思いをもって、様子に合った音楽づくりをしている。 (観察・ワークシート)

8 本時の指導 (4/5)



(1) 目標

- ・自分の思いをもって、イメージを膨らませて、歌詞や声の表現を工夫する。

実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現を目指すための手だて

評価項目	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した 児童への具体的な手立て
音楽表現の 創意工夫	自分の思いをもって、イメージを膨らませて、歌詞や声の表現を工夫し、イメージに合った音づくりをしている。	自分の思いをもって、イメージを膨らませて、歌詞や声の表現を工夫している。	教師の考えた具体例を提示しイメージをもたせて、教師や友だちのまねをしながら自分の思いをもつことができるように支援する。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
はじめ	1 「山びこごっこ」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習のイメージが広がるように雰囲気作りをする。 「あそび歌」の発表をすることを知らせる。 	
	2 前時までの取り組みを振り返る。		
なか	3 本時の課題をつかむ。 ・ワークシートや全体構成を見て流れをつかむ。		<p style="text-align: center;">あそび歌を楽しくくふうしよう</p>
	4 ペアで遊びの様子をイメージし、言葉や擬音語を使って歌を考える。 ・ペアで言葉とリズムが合うのか、意見を出し合いながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> 発想を広げるため、どんな遊びかは自由に考えさせる。 拍を一定に保てるようにする。 歌だけでなく、からだの動きもつけて表現するように声をかける。 	

<p>まとめ</p>	<p>5 ペアごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫しているところやよいところを見つけながら聴く。 感想を伝え合って、自分たちの考えに活かす。 <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポイントを明確にしながらかける。 	
------------	---	---	--

公園で遊ぶ

かくれんぼ

なわとび

ハロウィンパーティー

VI 成果と課題

1. 研究の成果

☆友だちと交流して表現する活動から

毎時間続けてきた「手遊び歌」や「リズム遊び」の中から、音楽を形づくっている要素（リズム・休符・記号など）の理解が活動を通して自然とできるようになってきた。演奏の時にも、楽譜の中から記号や休符をみつけ、意識して演奏することができるようになった。また、ペア学習やグループ学習を継続的に行ってきたことが、子どもたちの発想の広がりにも有効であった。一人だと表現することができずに悩んでしまっていた児童が、友だちの意見を聞いたことから自分の考えに自信を持ち、前で発表できるようになった。また、ドレミパイプを使ってみんなで1曲が仕上がった時に思わず「すごい！かっこいい！」と拍手がわきおこるなど、一人では1つしか出せない音が友だちと一緒にできる達成感にもつながった。

☆「からだ」を使って表現する活動から

歌や合奏では表現できないことでも、「からだ」を使うことで、自分の思いや意図を表現できるようになっていた。とくに普段言葉での表現が苦手で、他教科では自信を持っていない児童が、「からだ」の動きをダイナミックに工夫して、意欲的に表現活動を行うことができていた。事前アンケートで音楽が苦手な理由として、「上手にできないから」「あまり楽しくないから」と回答する児童が見られたが、実践後のアンケートでは、「音楽づくりは好きですか」の項目で32人中30人が「とても好き」「好き」と回答しており、今回の研究の成果が表れたのではないかと考えている。

☆学び合い活動から

個人→ペア→グループ→全体と段階を踏みながら様々な形態での学習を取り入れることで、自分の意見を伝えたり、考えを広げたりできる児童が増えてきた。授業の中で自分の考えをもたせたり、質問や感想を考えながら話し手の意見を聴いたりすることで、自然な反応が増え、聴く姿勢がしっかり身についてきた。「あそび歌」をつくるの題材では、言葉での表現が苦手な児童がペアの友だちの助言で活動を行い、授業時間にすべてのペアが「あそび歌」を完成することができた。グループ内で「あそび歌」を披露しあい、よかった点や工夫点を見つける活動の時も「ここはこんな動きがいいんじゃない？」「この音がおもしろい」などの学び合う姿勢が見られた。友だちの意見を聞いたことで、さらにおもしろい「あそび歌」になっていた。学び合いを取り入れたことで、教え合う楽しさや、みんなで分かるようになる喜びを感じ、授業の中だけでなく日常生活の中でも相手を大切に思っ生活する他者意識やあたたかな人間関係が育ってきた。

2. 今後の課題

☆評価について

課題の1つ目は評価についてである。今回の学習は、生き生きと表現することが目標であるが、ペアやグループ学習だと教師一人で全員を見取ることが難しく、話し合いの過程が見えなかった。1つのグループに声をかけていると、その他の複数のグループに目をくぼることができず、子ども同士での音楽的な気づきを十分にひろうことができなかったことが課題である。授業の最後に振り返りを書く活動も行ったが、低学年なので言葉での表現も難しかった。

☆積み重ねの難しさ

課題の2つ目は、4拍の流れとリズムに言葉をのせることが難しかった。聴いたり歌ったりする中で体感させながら理解させていく必要があると感じた。そのためには、1年生から基礎的な音楽を形づくっている要素を身につけていく必要があるが、ほとんどの学年が音楽の授業は担任が行っているため、音楽の教材研究の時間を確保することがとても難しいのが現状である。今後、強弱・拍の流れ・歌い方の工夫など、児童が表現の幅を広げていけるような方法を模索していきたい。

参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 【音楽編】
- ・小学校音楽「魔法の5分間」アクティビティ
- ・新・音楽の授業づくり
- ・「音楽づくり」成功のプラン